

善隣

No.489 通巻756

2018年（平成30年）3月1日発行（毎月1日発行）

2018

3





▲表彰される八島継男顧問



◀表彰された矢吹晋顧問と矢野一彌
会長



新年互礼会（1月11日：新橋亭）

善 隣 目 次 2018年 3 月号

公開講演会記録

- 岩倉使節団の米欧派遣と第3の開国に直面する日本
 ー私たちは何処に居るのだろうか。時の目と鳥の目での
 視点から今日を考える ……………井出亜夫 2
- 近代社会の発展と地質学 ……………神谷英利 10

- 「養蚕唱歌」を歌う
 ー歌に込められた養蚕立国への想いと自負 ……………藤川琢馬 17

- 中国ウォッチング ……………編・訳 上松玲子 26

- コラム 〈腰折れ文〉七、……………渡邊澄子 28

- 陶々俳壇……………馬場由紀子選／鈴木昭治郎 29

漢詩に親しむ 其一

- 三題嚙 漢詩・インターネット・中国語奨学生 ……………藤木英夫 30

- 会員彼是 年末の上海3日間の見聞 ……………日野正子 31

- 協会通信・会員だより・同好会だより …………… 32

- 2018年3月の行事予定 …………… 33

善 隣 第489号 通巻756号

2018(平成30)年3月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03(3573)3051

FAX 03(3573)1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (旬)ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

- みんなの写真館 …………… 32

公開講演会記録

岩倉使節団の米欧派遣と

第3の開国に直面する日本

— 私たちは何処に居るのだろうか。
時の目と鳥の目での視点から今日を考える

JCMS (日中管理学院) (株)アジア交流塾塾長 井出亜夫 (会員)

はじめに

10年以上前、ある政策研究誌が今後の日本にとって参考となるべき書籍を取り上げる企画に際し、私は現代日本のパラダイムシフト(成熟した市民社会の形成・第3の開国)を考えると、わが国近代社会の源流となった『米欧回覧実記』及び現代世界のパラダイムシフト(国民国家の超克ともいべきEU)に連なるシュテファン・ツヴァイクの回想記『昨日の世界』を取り上げた。今日、日本は、明治維新、戦後発展、バブルの崩壊、少子高齢化社会を迎え、第3の開国ともい

うべき事態に直面している。日本にとって両書は、従来にも増して様々な示唆を有すると考える。また、本稿は、NPO法人米欧亜回覧の会、(一社)フォーカス・ワン、(一財)地球産業文化研究所等様々な関係活動の結果として得た認識であり、様々な意見交換を頂いた皆様に謝意を表したい。

〈岩倉使節団の米欧歴訪と明治維新・明治国家体制の形成〉

岩倉使節団の米欧訪問は、日本近代政治、経済、社会に決定的影響を与えた一大イベントであり、明治維新の革新性を示す世界にも類例無き快挙であろう。



使節団は、廃藩置県後の明治4年(1871年)日本近代化の範を求めて米欧12か国(アメリカ、イギリス、フランス、プロシア、ロシア、イタリア、オランダ、デンマーク、スウェーデン、スイス、オーストリア、ベルギー)を足掛け3年、600余日をかけ歴訪し、政治、経済、産業、軍事、技術、社会、文化、教育、宗教等にわたる各国社会の制度、思想、背景等多様な観察をした。しかし、実際の明治政府、社会の展開は、封建諸制度の廃止、殖産興業、近代的インフラ整備等の面で大きな成果をあげるが、民権の伸長、自由の開化に繋がらず、強兵、治安が先行、漸進的市民社会の形成、民主国

家の形成として結実しなかった。その功罪をたどることは、第3の開国に直面する日本にとって必須の作業といえよう（『五箇条の御誓文』は何故に世界史にアピールする冠たる存在になれなかったかを省察する作業は、今日的課題を帯びている）。

特に、日露戦争以後の日本は、使節団が、帰国の途次インド、シンガポール、中国において欧州帝国主義のアジア支配を観察したにも拘わらずその後追いに走り、今日もその負の遺産から十分に脱却できていない。朝河貫一（イエール大学教授）は、日露戦争に当たり米国世論の好意を日本へ向けさせる努力を重ねたが、日露戦争後の日本は世界史の軌道を外している」と祖国への警告を発し（『日本の禍機』、東洋経済に依拠した石橋湛山は、大陸への進行を図る大日本主義に対し「小日本主義」を唱え、また、中国近代化を志向し、多くの日本人の助力を得た孫文は、「日本は欧米列強の覇道の走狗となるのか、アジアの王道の守り手となるのか、それは日本人自身が決めることだ」と述べ、1924年日本を去る。残念ながらわが国は孫文がいう後者の道を踏むことが出来ず、その負の遺産から今日も十分に脱却できていない）。

村に無学の人・家を無くす教育は全国に普及するが、教育勅語として偏向した。また、科学技術、工業生産は進展するが、社会科学の客観性追求は、『米欧回覧実記』の記録者久米邦武が「神道は祭典の古俗」と論じ、新生東京帝国大学を追われたことに象徴されるように著しく損なわれた。此処では、プロシア憲法下でさえも書かれた『権利のための闘争』（エーリング）は生まれなかった。

一方、大逆事件で護送される幸徳秋水を見た永井荷風は、仏陸軍のドレフュス冤罪事件に対しエミール・ゾラが激しく抗議する仏社会との対比においてそれができない日本社会を嘆き、総じて日本文学は政治・社会を論ずる世界から私小説の世界に入っていた。

福沢諭吉は明治維新の革新性を認めつつも、華族制・藩閥官僚制等新たな特権、官尊民卑を批判、独立自尊を唱え、夏目漱石は、明治近代化に伴う様々な社会的不安定性を認識する必要性を指摘（『三四郎』、『現代日本の開化』）している。

大正デモクラシー、天皇機関説、農林省における自作農創設の検討等は、明治欽定憲法下の社会を一步前進させる光明ではあったが、敢無く挫折、戦後改革まで待たざるを得なかった。

〈戦後改革と経済発展〉

戦後は、米国の占領下、日本国憲法の制定下、強兵から富国への転換、封建遺制の撤廃、農地解放、言論・出版・結社の自由を得、これら改革の下で経済大国の実現、民主主義の普及を見た。敗戦による国民茫然自失の中、石橋湛山は、「再生日本の前途は洋々である」と戦後日本の将来を見通した。戦後発展は、ブレトンウッズ体制による通商の自由化、米ソ対立冷戦下の国際環境が好条件となったが、日韓併合、大陸侵略への自発的省察・反省を欠くことにもつながった。

中韓両国において日本との歴史問題が提起される中、河野談話、村山談話は、遅まきながらこれを実現したものであり、また、今日、今上天皇の満州事変以来の歴史の回顧、反省もこれに繋がるものである。

長年の経済成長とバブル崩壊、グローバル社会の進展の下、今日の日本は、明治維新、戦後改革に続く第3の開国を迎えている。司馬遼太郎『坂の上の雲』（近代国家建設を目指した日本）は、明治上昇期の日本を描き、城山三郎『官僚たちの夏』（一国の産業振興・経済発展）は、経済発展、成長経済を目指す日本の

姿を描いたものであるが、今日私たちは、次の社会を展望するシナリオを考えなければならぬ。この作業は、日本近現代の成功、失敗、工夫を省察するとともに、グローバル社会における世界平和の追求と既存の市場経済システムを考察し、新しい公共の構築でなければならない。

〈第3の開国と21世紀の市場経済システム〉

カント『永遠平和のために』（1795年）は世界平和実現のエッセンスを著し、立憲共和制国家の連合による常備軍の廃止を提案した。日本国憲法思想の形成、その系譜の延長に位置し、EUの形成、アセアン共同体の志向も、その方向を行くものである。しかし、国民国家を超えた国際レジームは未だ不十分であり、グローバル社会の進展に伴う内外の貧富の格差は座視しがたい。国際社会は市場の失敗、政府の失敗、ポピュリズムの弊害を認識し、新たな制度設計を急がなければならない。ミルトン・フリードマン流の米國シカゴ学派及びその流れをくむ経営学の影響は依然として優勢であるが、グローバル経済下の市場経済システムにおいて、貧富の格差をなくし、幅広い企業の社会的責任を問い、これを実践する動きも始まっている。『社会的

共通資本』（宇沢弘文）、『21世紀の資本』（トマ・ピケティ）、『不平等の経済学』（アマルティア・セン）等の議論はこうした認識を示した啓蒙的著書でありうる。また、地球環境問題は、差し迫った人類共通の問題であり、共同体としての地球社会が、これに対処できるか、人類の試金石とされているし、2030年を目指した国連SDGs（持続可能な開発目標）も新しい動きである。

アダム・スミスに始まる近代市場経済思想は、自由な富の追及は、倫理的存在としての人間を前提としたものであったし、マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』も同様な系譜から発生した。一方、わが国江戸期における石田梅岩による心学思想『都鄙問答』、論語、孟子、老莊思想等東洋の倫理哲学に今日の世界の課題を解くヒントを多数発見することができ、グローバル経済化に向かう世界への視点を考えるに当たり、大きな発信力を有するものである。

〈企業の社会的責任〉

近代市場経済は、自己利益の追求が社会全体の利益を実現するという前提に立ち、また、その中核に人間が倫理的であ

ることを要求する社会体制である。その意味で株主主権、企業の至上目的は利益の追求とする考えは誤りであり、アメリカ型市場経済至上主義は本質的矛盾を有し、21世紀の市場経済を主導するものとはならない。現にリーマンショックは、市場経済至上主義の破綻を示し、また、今日問われる格差社会の問題は、従来の市場経済の在り方を改めて問う問題である。

翻って会社・企業体という存在を考えたとき、そこにはヒトとモノの二重性が存在する（岩井克人東京大学名誉教授）、モノとしての企業が、法人（ヒト）という権利主体として承認されるとき、これには社会的公器として、個人が求められる素養・倫理と同様のものが求められる。若き時代アメリカに渡った高碇達之助（東洋製罐の創始者）は、まだアメリカに深く存在したピューリタンスピリッツに触れ、「事業の目的は、第1に人類の将来を幸福ならしめるものでなければならぬ。第2に事業と言うものは営利を目的とすべきではない。自分が働いて奉仕の精神を発揮するということが、モダン・マーチャント・スピリットだ」と唱えた。

1 改革の諸課題と新しい経済社会関係

改革の諸課題は、市場の失敗と政府の失敗を克服し、新しい経済社会関係を模索、形成することである。

- 政治改革…55年体制の終焉と新しい模索が続いているが、政権交代と政党政治の未成熟は、現状観察の通りである。しかし、19世紀イギリスの啓蒙思想家サミュエル・スマイルズが指摘する「一国の政治のレベルは国民のレベルを反映する」の説を私たちは銘記しなければならない。
- 行政改革…中央官庁主導国家から分権と新しいパブリックの形成が求められる。明治以来日本は、行政権優位の事態があり、行政改革の実が足りない。橋本（龍太郎）「行革はその意味で大きな実験であったが、その後の絶えざるフォロアアップが停滞している」。

- 財政改革・社会保障改革…受益と負担のバランスを図り、持続可能な制度の構築が不可欠である。財政はサンタクロースたりえないことを銘記し、人生60年・70年時代を前提とした定年制と年金制の大幅改革は待ったなしの課題である。
- 金融改革…社会的共通資本としての金

融システムの形成が急がれる。

- 教育改革…画一教育の是正、リベラルアーツの充実、テクノクラート養成からの脱皮が求められるよう。

- 司法改革…岩倉使節団の訪仏時に、一行は、市民の裁判への参加に驚くが、100余年を経てそれが実現、裁判員制度が導入された。一方、検察改革の姿は必ずしも見えてこない。

- 規制改革…規制緩和でなく規制改革（not deregulation but regulatory reform）。両者を峻別しなければならない。時代遅れと無用な規制は速やかに撤廃されるべきであるが、新しい経済社会関係の形成に必要な規制は導入されなければならない。

2 新しい公共とグローバル市民社会の形成を探る

重要なポイントは、既得権を排した民主的、効率的そして持続可能な行政の制度設計と自立した市民の参加である。市場にすべてを委ねる市場経済原理主義ではなく、地球環境、地域社会、都市計画、交通・通信、教育、医療・福祉、金融等の社会的共通資本（宇沢弘文教授）の概念を組み入れた市場経済の構築である。

日本社会は、失われた10年が延々と続いているという見方もあるが、この間において、新しい公共を構成する様々な思考、制度設計も試みられている。行政手続法、情報公開法による行政の公開性、説明責任、公務員倫理法、公益通報者保護制度、市民参加による裁判員制度、消費者基本法による消費者の責任、環境基本法と共生概念、公益国家独占主義を打破したNPO法、政策選択と評価の芽生え、企業の社会的責任論の高まりなどその内容、運用に多々問題はあがあるが、新しい現実が進んでいることも事実である。

問題は、これらをより統一的にオーガナイズする政治的イニシアティブとこれを支える独立自尊（福沢諭吉）の市民の努力といえよう。ここでは、以下にNPO法の意義、企業の社会的責任と市場経済の在り方に関わる新しい動き、持続的発展に関わる世界の動きを紹介したい。

（1）NPO法制定の意義（新しい公共の模索）

非営利組織（NPO）は、政府、企業に続く第3のエマージング・セクターであり、現代市民社会の重要な構成要素である。欧米先進国では、市民社会の形成、成熟とともにNPO組織運動が大きな社

会的役割を果たしているが、わが国においては、1998年NPO法（特定非営利活動促進法）成立まで、民法の基本原則として、公益国家独占主義・管理主義ともいふべき体制が貫かれ、市民もまた、公益の担い手である観念が欠如していた。

1995年阪神・淡路大震災に際し、全国各地からNPO団体が復旧援助に駆け付けNPOの存在と重要性が社会的認識を得た。今日、本法に基づき設立されたNPO法人は5万余団体を数え、地域社会の公益から国際社会に及ぶ公益に従事する多数のNPO団体の活動を見る。NPO法に基づく法人は、情報公開によってその評価を受けなければならない。

一方、公益遂行の主体たる行政も、当然その評価を受けるのが市民社会の常識であり、行政に対するオンブズマン制度の必要性は極めて高いものがある。行政手続法、情報公開法は、それにいたる先駆けとも位置づけられるが、岩倉使節団が訪れたスウェーデンにおいては、この時すでにオンブズマンの制度が存在した。

（2）企業の社会的責任（CSR）の新潮流

日本経団連は、1991年日本経団連企業行動憲章を制定し、経済人コー円卓

会議―道義的資本主義を提唱「企業の行動指針」を策定―は、国連グローバル・コンパクトの策定により世界の企業・団体の自主的行動を促している。一方、EU（欧州連合）は、CSR概念の域内における共有を図り、国際標準化機構（ISO）は、CSR（SR）の国際標準を提示している。これらは、経済成長至上主義、市場経済原理主義・利益至上主義に傾いたグローバル経済の展開の中で、企業の社会的責任の大きさを再認識させる新しい動きであり、バリューシフトといえよう。

（3）成長の限界と地球環境問題及び持続的発展計画

地球環境問題は、人類の相互依存関係を世界に認識させ、わが国においても、環境基本法、循環型社会形成推進基本法等において、環境の恩沢の享受と次世代への継承、持続可能な発展とライフスタイルの追及、国際協力による解決、拡大生産者責任等のコンセプトが生まれている。パリ協定は、発展途上国を含めた合意が成立した。現在、米国のトランプ大統領がこれに異を唱えているが、世界の良識の方向が変わることはない。同じく国連では、2030年をめざしたSDG

s（持続可能な開発目標）を掲げ、貧困、飢餓、エネルギー、水の問題を含め広範な環境問題に熱心な取り組みを実行している。

〈国民国家の超克〉

（1）英国のEU離脱問題に端を発し、EU組織そのものの存在に対し様々な疑義が提起されているが、視点を広げ、時の眼（歴史的視点）、鳥の眼（グローバルな視点）で見た観察が必要であろう。

シュテファン・ツヴァイク著『昨日の世界』は、19世紀末から20世紀前半の欧州社会を象徴的に描いた著者の遺書ともいえるものであるが、「EUの形成」は、「昨日の世界」になってしまったヨーロッパを「明日の世界」に転ずる欧州の知性と政治的イニシアティブの結果ともいえる。

「昨日の世界」と「明日の世界EU」

シュテファン・ツヴァイクは、19世紀末のウィーンに生まれ、安定の黄金期ヨーロッパ、それを根底から崩した第1次世界大戦、ソヴィエト社会主義政権の成立と戦後の混乱、ナチス、ファシズムの台頭と第2次世界大戦の開始に至る激動のヨーロッパに生きた。

1914年セルビア人によるオーストリア・ハンガリー帝国の皇太子暗殺に始まる第1次世界大戦は、戦争と革命による20世紀の幕開けを示すものであった。ツヴァイクは、1939年の第2次世界大戦の開始とともにブラジルに亡命、自分の精神の故郷ヨーロッパは今や過去のものとなってしまったと嘆き、南米リオ郊外の地で自らの命を絶つ。

戦争を終わらせるための戦争だったはずの第1次世界大戦は、人々が予想さえしなかった膨大な物的、人的被害とともに精神的衝撃をヨーロッパ社会にもたらした。新生アメリカ大統領ウィルソンの世界平和への提唱も現実政治の中でもろくも崩れ去り、人類社会の理想を実現するはずだったソヴィエト・ロシアの実態は理想社会から全く遠いものであることが明らかになっていく。ケインズがいち早く察知したヴェルサイユ条約の危険性はナチスの台頭、第2次世界大戦への突入として現実のものとなっていく。

ツヴァイクが逝って3年、ヨーロッパは第1次世界大戦を上回る破局的戦争を続け、さらに鉄のカーテンで仕切られた冷戦の試練に直面することになる。しかし、その困難と歴史的教訓の中からできた欧州石炭鉄鋼共同体(ECSG)を手

始めとして、EEC、EC、EUの形成がなされる。これは、20世紀の教訓を生かした人類史的試みということが出来る。ドイツ、ロシア(ソヴィエト)の2大国に翻弄され、苦難の歴史をたどったポーランドを始めとする中東欧諸国は、この諸国民の共同生活による将来に僥倖を見い出したはずであろう。

もちろん、この国民国家を超えた人類の試みは、まだその試行の過程にあり、様々な問題に遭遇すると思うが、トルコのEU加盟交渉の行方、英国のEU離脱問題、トランプ大統領の選出、仏ルペン女史(国民戦線党首)の大統領戦出馬という現象だけに観察の視点を留めることなく歴史の流れの中(時の眼、鳥の眼)で観察しなければならない。

(2) 米国主導の下、反共組織としてできたアセアンはヴェトナム、ラオスを加え、アセアン共同体の形成に向かっていく。EUの形成、アセアン共同体の結成に進む世界の大勢の中で、(東)アジア共同体さらには人類共同体というユーロピアが現実となるための微力を注ぎたい。(パン・ヨーロッパ連盟の提唱者クーデンホーフ・カレルギー(1894-1972)は、「すべての偉大なる歴史的事実、ユーロピアに始まり現実に終わ

る」と述べている)

満州事変、日中戦争、太平洋戦争の悲劇と歴史的失敗を経て成立した日本国憲法は、1795年『永遠平和のために』において立憲共和国の連合による常備軍の廃止を世界に唱えたカントの思想を継承する世界的存在であり、国際平和に貢献するわが国の世界における役割は多大なものがあるといえよう。

(3) 前漢時代、近代国民国家の概念はなかったが、古代東洋思想の中に国家を超えた人類共同体思想を見ることが出来る。

前漢劉向『説苑』(楚の共王狩りに出て、その弓を失う。左右これを求めんことを請ふ。共王曰く、「止めよ。楚人弓を失うも、楚人これを得ん。又何ぞ求めん」と。仲尼(注・孔子)これを聞きて曰く、「惜しいかな。その大ならざる。人弓を失うも人これを得んと曰はん。何ぞ必ずしも楚のみならんや」と。仲尼は所謂大公なり。)

3 改革の諸課題の背後にあるもの

(1) 組織のあり方と個人の自立

企業を中心とするわが国の組織及び個人はいかなる対応を取りうるであらう

うか。福沢諭吉が、明治時代に深くとらえた独立自尊の課題は、ここにあらためて提起され、また、加藤周一、中村元、丸山真男等が鋭く分析する日本の伝統的思想（体系的価値観の欠如―所属集団への強い帰属、蛸壺社会）はどう克服、展望されるであろうか。

(2) リベラルアーツと時の目、鳥の目で見る歴史観

人間の相対性、相互依存性あるいは全体と部分を理解・認識するうえで、リベラルアーツ、歴史意識の必要性は一層高まっている。明治以降今日に到る日本の教育は、テクノクラート養成に主眼が置かれ、リベラルアーツ、歴史意識を埋没させることにならなかったか。

(3) 東日本大震災の教訓

東日本大震災復興会議提言は「どの切り口をとっても被災地への具体的処方箋の背景には、戦後日本が未解決のまま駆け込んできた問題が透けて見える。その上、大自然の脅威と人類の驕りの前に、現代文明の脆弱性が一挙に露呈してしまった事実に思いいたる。文明の性格そのものが問われている云々」と指摘している。産業革命以降、人間は科学技術の発達により様々な場面に

おいて自然を克服したと考えてきた。今次震災は、人間が決して万能でないこと、自然との調和の中で存在できるものであることをあらためて痛感させ、また、現代文明の根底にある物質主義と巨大科学技術信仰・依存に警告を与えたシューマッハーの経済科学思想「small is beautiful」の問いかけを改めて想起させた。

4 日本近代化の経験と世界における日本の役割

冷戦の終結以来、世界はそれまでの体制間競争からすでに第三の道を開拓、探し求めている。EUの形成、アセアン共同体の志向、地球環境問題への取り組み、国連サステナブル・ディベロプメント・ゴールズ（SDGs）制定、パリ議定書、核兵器禁止条約等は、その具体的展開であり、世界の相互依存認識の高まりを示すものである。世界の成長センターである東アジアに隣接する日本は、大きな機会と責任を与えられたことを認識しなければならぬ。

翻ってわが国近代化の150余年の歴史を遡れば、米欧諸国の富強の所以を訪ね、近代国家建設にまい進した150余

年でもあった。夏目漱石は『現代日本の開化』の中で、日本の近代化は欧米諸国が100年、200年を要して自生的に成し遂げたものを外生的インパクトからわずか30年から40年でやり遂げるものであるから、それに伴う様々な社会的ひずみが生ずることを述べている。また、戦後におけるわが国の発展も基本的には経済先進国を目指したプロセスであった。1956年の経済白書は、「もはや戦後ではない。復興を通じての成長は終わる」と述べ、また、1957年の白書は日本経済について「一方に近代的大企業、他方に前近代的労使関係にたつ中小企業及び家族経営による零細企業と農業が存在し、…いわば一国のうちに先進国と後進国の二重構造が存在するに等しい」と描き、これからの脱却をナショナル・ゴールとした。

一世紀余を経て達成したこの間のわが国の成功、失敗、工夫の経験を近代化と経済建設に向かうアジア、アフリカ諸国と共有することが世界史における日本の役割ということができよう。

2020年東京オリンピックは、世界は一つの理念を追求、人間の共生を進展させるものでなければならない。

おわりに

英国の著名な歴史家E・H・カーは「歴史とは、過去と現在の対話である」と述べている。私は、これに加え、「歴史とは、過去と現在の対話であり、また、未来への展望である」と考えている。世界は大きな転換期にあり、また、現代の日本は、明治維新、戦後改革に次ぐ新しいパラダイムシフトに直面している。この第3の開国を切り開くことが、現代に生きる私たちの歴史的使命である。最後に、日中韓印のグローバル思想に触れ、論を閉じたい。

宮沢賢治 農民芸術概論要綱序論

我らは一緒にこれから何を論ずるか：世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない
自我の意識は個人から集団社会宇宙と次第に進化する
この方向は古い聖者の踏みまた教えた道ではないか
新たな時代は世界が一の意識となり生物となる方向にある
正しく強く生きるとは銀河系を自らの中に意識してこれに応じていくことである

我らは世界の真の幸福を訪ねよう…

尹東柱（韓国） 序詩

死ぬ日まで空を仰ぎ 一点の恥辱なきことを 葉あいにそよぐ風にも 私は心痛んだ 星をうたう心で 生きとし生けるものをいとほしまねば そして私に与えられた道を歩みゆかねば 今宵も星が風に吹き晒される

北宋范仲淹『岳陽楼記』

士當先天下之憂而憂後天下之樂而樂
士當に天下（世界）の憂いに先立ちて憂い天下（世界）の楽しみの後に楽しむ

マハトマ・ガンジー「現代社会における7つの大罪」

- 原則なき政治 (Politics without Principle)
- 道徳なき商業・ビジネス (Commerce without Morality)
- 労働なき富 (Wealth without Work)
- 人格なき学識（教育） (Knowledge without Character)
- 人間性なき科学 (Science without Humanity)
- 良心なき快楽 (Pleasure without Conscience)

- 献身なき信仰 (Worship without Sacrifice)

(2017年12月14日・公開アジア研究懇話会)

筆者略歴（いで つぎお）

1967年東京大学経済学部卒業。同年通産省入省、英国サセックス大学経済学修士。

OECD日本政府代表部参事官、中小企業庁小規模企業部長、日本銀行政策委員、国民生活局長、経済企画審議官等を歴任。

この間産業政策、エネルギー政策、中小企業政策、マクロ経済政策、国民生活行政等に従事。

退官後、慶應義塾大学教授、日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科長。国際中小企業会議代表理事、中国の環境と発展に関する国際委員会ワーキング・グループ議長。

著書：『世界の中の日本の役割を考えるー岩倉使節団を出発点としてー』（共著、慶應義塾大学出版会）、『アジアのエネルギー・環境と経済発展』（編著、慶應義塾大学出版会）など。

公開講演会記録

近代社会の発展と地質学

元京都大学大学院理学研究科教授 神谷英利



地質学とその役割

専門分野を聞かれて「はい、地質学です」。そう言うとき日本では、まず「は？」。もう一度言い直して、説明するところがしばしばである。そうでない場合でも、「変わったこととしている」、「世の中

とあまり関係ない分野」などと思われることが多いようだ。実際には、それとはまったく逆で、18世紀後半から現在に至る200〜300年の間に、理論面でも実生活面でも人間社会に対して、最も重要な貢献をしたと言って良い科学の分野である。そして、現在でも世界経済を左右する石油や鉄鉱石などの重要な地下資源の開発と利用に関連して、人間社会にきわめて重要な関わりを持っている。簡

単に言えば、地質学者や地質技術者が資源調査をしなければ、世界の多くの地下資源は発見が困難となり、それに依存している人類は大変な危機に瀕するのである。

地質学が誕生・発展した歴史のある欧米諸国では、地質学と言うものが日本よりずっと一般市民になじみ深いものとなっているので、地質学者や化石を扱う古生物学者は一種の畏敬の念を持って対応されることが多い。また、欧米以外でも地下資源の豊富な国々では同様のことが見られる。この分野が自分たちの国と社会にとって重要な役割を果たしていることが知られているからである。

また、文化的にも地球上に存在する自分たちが、一体いかにして生まれたのか、人間とは何か、という本質的な課題に直

接関わることの出来る科学の分野でもある。

日本では明治の初期、当時は「発展途上国」であり、富国強兵を掲げてひたすら欧米の文化や科学技術を取り入れることに勤しんでいた時代であるが、産業と軍事力の発展には、鉄鉱石や石炭を始めとする鉱産資源の開発が不可欠であった。政府は欧米の学者を招聘して、地質学の教育に当たらせた。ナウマンゾウの名前の元となったドイツ人のナウマン(Heinrich Edmund Naumann)はその代表格の地質学者である。

政府は教育機関の大学とあわせて、先進国にならって調査・実務機関である地質調査所を設立した(1882年)が、この設立と運営に当たっても、ナウマンが深く関与している。大学及び地質調査所

の地質学者・地質技術者により日本列島とその後「併合」された朝鮮半島地域、また日露戦争に日本が多くの権益を得た中国東北地方（満州）はくまなく調査され、鉄鉱をはじめとする多くの金属鉱床や石炭鉱床が発見された。良し悪しは別として、これらの鉱産資源は、明治以降の日本の発展を大きく支えるものとなった。

敗戦後の新生日本の復興に際しても、石炭や鉄鉱は大きな役割を果たした。各地の炭鉱は増産に次ぐ増産を重ね、石炭は黒いダイヤとさえ呼ばれて、まさに花形的存在だった。しかし、1990年ごろから、日本の鉱産資源の原価が高いとして、政府は海外からの「安い」資源の輸入を主とする政策に転じた。国内の炭鉱を始め、金属鉱山はほとんどあつと言う間に閉山に追い込まれた。

それから数十年が過ぎた昨近、日本人は自分たちが日常的に依存している電気・ガス・ガソリン、建築物や車両を作る鉄・多種の金属・化学製品その他もろもろの商品の元になっている鉱産資源について、以前にも増して、まったく関心も知識もなくなってしまった。石油の輸入程度は知っているが、それ以外のものについては、いつの間にかどこから湧き出ているかのような感覚でいる、と言うかその

感覚さえない。ほとんどの根幹的資源を外国からの輸入にまかせている状況は、食糧問題と合わせて、「国の存亡」にも関わる大きな問題である。

地質学の意味

地質学は英語で *geology* といい、*geo*（ジオ）とは古代ギリシャ語で土地、大地の意味であり、*logy* は学問、研究といった意味であるから、土地の性質、大地の成り立ちとそれに関わることがらを研究する科学ということになる。地質学者は *geologist* である。ほかに *geo* の付く学問分野として、*geography* 地理学（土地を記述する科学）や *geometry* 幾何学などがある。幾何学は数学の一分野であるが、その起源は古代エジプトにおける土地の測量にあるので、*geo* 土地という接頭語が数学の分野名についているのである。最近では *geology* というやや狭い意味になる印象があるとして、*geoscience* 地質科学あるいは地球科学と呼ぶことも多い。

地質学の成立

近代科学としての地質学が確立したの

は19世紀中頃のことであるが、これは18世紀後半からイギリスで始まった産業革命と深く関わっている。産業革命は、一般的には「産業の技術的基礎が一変し、小さな手工業的な作業場に代わって、機械設備による大工場が成立し、これとともに社会構造が根本的に変化する」と産業革命を経て初めて近代資本主義経済が確立。1760年代のイギリスに始まり、1830年以降、欧州諸国に波及した」とされる（広辞苑）。

機械による工場生産や鉄道の発達は必然的に鉄の需要を増大させ、製鉄業が盛んとなった。イギリス各地で石炭や鉄鉱石の探査と鉱山の開発が行われた。蒸気機関の普及と並行して、各地で石炭が大量に採掘されるようになって、材木よりも安価にかつ安定的に製鉄用の火力が供給されるようになった。

鉱山の開発と運河の掘削

蒸気機関を利用した工場での大量生産には火力源として大量の石炭が必要である。また、工場の機械本体や製品を運搬するための鉄道のレール、機関車などの車両、鉄橋などのために大量の鉄が必要で、各地でさかんに製鉄が行われた。鉄鉱

石を製錬するためにも、石炭が使われる。

イギリス各地で鉱山や炭鉱の開発がすすめられたが、そのためには地質学の知識が不可欠である。鉱石や石炭の含まれている岩体や地層を詳しく調べて、鉱石や石炭の立体的な分布を知り、それに基づいて坑道を掘って採掘するのである。この時期、地質学はまだ十分体系立った科学とはなっていないかったが、その方法は太いに重用された。

産業革命の進展の中で、交通革命と呼ばれる大きな大変革があった。産業革命以前、イギリスではロンドンから各地に向かう街道できちんと整備されたものはほとんどないに等しかった。主要街道がしっかり整備されていた江戸時代中期の日本と比べて相当劣っていた、ということが出来る。工場での機械生産により運搬量が増えたと、これではとても対応出来なくなった。

また、工場生産に使う石炭も産地から大量に運ぶ必要がある。このような状況下で新たに出現したのが、船による大量輸送である。船による輸送は、河川の改良に加え、新しく運河を造ることによって、製品を安価かつ安全に運送する手段として広まっていった。18世紀後半になると各地で大小さまざまな運河が開削さ

れ、石炭や生産品が一度に大量に運搬されるようになり、その結果、商品に含まれていた運送費が大幅に下がった。例えば、バーミンガムからマンチェスターまでの石炭の運送費は、陸路の場合の3分の1以下となった。

資産家は新しい運河の開削事業に争うように投資し、新しい運河を次々と開通させた。そのため、この時代は「運河時代」とか「運河狂い時代」と呼ばれている。一時期、イギリスにおける運河の総延長は4800 kmに及んだ。東京と札幌の距離が1200 km弱であるから、その4倍強であり、その長さの程が判る。

ウィリアム・スミスと地質図

ウィリアム・スミス William Smith (1769年~1839年) はイギリス地質学の父と呼ばれる人である。今では偉大な地質学者とされるスミスであるが、上流階級の出身でもなければ、高い学歴の持ち主でもない。

独学で幾何学や測量技術を身に付け、19歳の時に測量技術者として働き始めた。この時代、イギリスは産業革命のさなかで、石炭や鉄鉱の探査・採掘が盛んであり、大規模な運河の開削工事では、丘陵

地が深く掘削され、その土地を造っている岩石や地層の大規模な露頭が現れた。スミスは測量にとどまらず、岩石や地層の特徴を観察し、また、地層中に含まれる化石の収集も進んで行った。

地層の三次元的な配列を明らかにすることは、石炭を採掘する上で極めて重要であった。現在掘っている石炭層が、離れたほかの場所にどのようなに続いているのかを明らかにしないと、その石炭層を追跡して掘ることが出来ない。スミスは多くの観察をもとに、地層の立体的な配列には一定の規則性・法則性があることに次第に気付いていった。そして、その観察はイギリスの広い範囲にまで広がった。スミスは地層と岩石の分布を地図上に表した地層図(地質図)の出版に意欲を持ち、1815年8月、ついに、「最初の科学的な地質図」である『英国地質図』が出版・販売となった。この地質図は着色の260 cm×185 cmという大きなものだった。

地質の専門でない方にとって、地質図の概念と重要性はかなり判りにくいものである。また、説明もしくにくい。ごく簡単に言うと、地質図とはある地域を構成する岩石・地層と、それらの時代、互いの関係、断層・褶曲などの構造要素

などを、記載した一種の地図であり、そこからその地域の地質学的特性および地史（発達史）を読み取ることが出来る。精度の高い地表の調査に基づき、地下数百メートルの地質断面図を書くことも可能である。地質図とその概念の誕生により、地質学は一気に理論的・実践的に発展を遂げた。

社会の変革を促した地質学

ヨーロッパでは長い間、キリスト教の教義に基づいて社会および自然の摂理が定められていた。神による天地創造は4000～5000年ほど前のこととされ、大洪水説なども当然のように信じられており、地層から発見された両生類の化石を、頭が大きいので、洪水で死んだ罪深い人間の子どもの遺骸とする論文さえ発表されていた。この化石はフランスの古生物学者キュビエが再検討し、日本に生き残っているオオサンショウウオの化石であることを明らかにした。

新進の地質学者は、過去の時代に神による特別な出来事（「天変地異」）を設定する必要は全くなく、何億年も前でも地球上では現在と同じ自然現象があったことを提唱し、保守派と論戦を繰り広げて



ノアの洪水で死んだ「罪深い人の化石」とされた標本。実は日本で生き残っていたオオサンショウウオの化石だった

勝利した。

科学に関する論争は社会一般でも大きな関心を持たれた。19世紀前半のイギリスで最も人気のあった自然科学は地質学で、社会科学では経済学であった。地質学や同じくこの頃に発展した生物学など新しい科学の発展は、「世の中」「世界」に関する古い宗教的観念を弱め、やがて打ち破ることに大きく貢献し、宗教が支配してきた旧来の社会を改革することにつながっていった。

列強の海外進出と資源獲得

19世紀欧米諸国は資源を求めて植民地を中心とする地域での調査を加速した。主に役割を担ったのは、主要各国にある地質調査所と呼ばれる調査機関だった。英国地質調査所は1835年に創設され、さらに植民地のインドに1851年、インド地質調査所を設立し、地下資源の探査と開発に力を傾注した。オランダも東インド・ジャワにバンドン地質調査所を設立。石炭、石油、鉄鉱石その他の金属資源の探査を進めた。

日本の地質調査所は明治15年（1882年）に設立され、国内の調査を進めてきたが、日本の「大陸進出」にともない、大正7年（1918年）に朝鮮総督府地質調査所、明治40年（1907年）に満鉄地質調査所が設立されて、朝鮮・中国東北部（満州）の地下資源調査を進めた。満鉄地質調査所は明治42年（1909年）に鞍山大鉄鉱床を発見するという「大成果」を挙げた。満鉄地質調査所は昭和13年（1938年）に「満州国」に移管され、満州帝国地質調査所となり、敗戦まで続いた。

この地域で特筆されるのは、撫順炭鉱

の石炭層である。炭層は「世界無比の厚い炭層」と言われ、東部では10 m前後の厚さだが、西では厚くなり、最大120 mに達した。これを近代化された設備で露天掘りで採掘した。ここでは、油母頁岩（オイルシェール）からの石油の抽出も行われた。頁岩の石油含有率は6%であり、1930年に開始され、粗油生産量は1943年で25・5万トン、合計量で195・6万トンに達し、当時としては世界最多であった。撫順炭鉱は現在でも稼行しており、戦後も中国の復興に役立てられた。

中国は国土が広大なうえに、多くの重要な鉱産資源を産する国である。北京と武漢には中国地質大学があり、それぞれ1万2000名と4万名もの学生が在籍する。ここを巣立った地質学者・地質技術者たちは、中国各

地で地下資源調査に従事し、多くの成果を上げた。現在、世界の鉄、亜鉛、鉛、錫（すず）の鉱石の40〜50%、金、銀の15%以上、そして希土類（レアアース）の85%を中国産が占めている。

世界最大の国土を持つロシアでは、当然のことながら、資源探査や国土開発のために、ソ連時代から地質学や地理学が重視されてきた。スターリン時代に建てられ、高さ240 mを誇るモスクワ大学の

本館には、39の学部の中のうち主要4学部とされる学部が位置しているが、その中には地質学部と地理学部が含まれており、地質学部だけで学生は1000名にも上る。さらに、26〜28階は地質博物館となっている。

また、1879年に設立されたアメリカ地質調査所（USGS）は大規模な調査・研究機関で、所員は約9000人、全米の地質調査、資源探査のみならず、世界中の地震、火山、津波、気候変動また惑星探査までを一



中国地質大学・武漢校の正門。壮大な門だ



アポロ17号（1972年）で月面に到達し、岩石を採取するシュミット飛行士（地質学者）

手に担当している。アポロ計画による月探査では、1972年12月のアポロ17号で、地質学者であるシュミット飛行士が月面に降り立ち、専門家として、月面の岩石の調査をした。

地質学と文学

著名な文豪・文学者で地質学に関わりのある人たちについて紹介しよう。地質学は実用を目的とするのみならず、本質的には地球とは何か、そこに生まれた我々人間とは何かを追求するロマンにあふれた学問であるから、文学とのつながりは

あって当然である。ここでは、ゲーテ、魯迅、宮澤賢治について簡単に触れる。

ゲーテ（1749年～1832年）はフランクフルトに生まれたが、26歳でワイマール（ヴァイマル）公国の領主アウグスト公の下で枢密顧問官となった。ここで、鉱山の管理・運営の責任者を務め、鉱物学・地質学の専門家となった。文芸作品を執筆中もこの鉱山・鉱物の仕事が本業であり、生涯で1万8000ほどの岩石、鉱物の標本を収集している。また植物の形態にも関心を持ち、「生きている化石」のイチョウについても調べた。1786年～1788年には、イタリア紀行として知られるイタリアへの大旅行を行い、途中、多くの自然・地質現象を観察し、ナポリ滞在中は活動中のベスビオ火山に3回も登頂して、きわめて危険な目にあいながら、噴火を観察した。さらに、シチリアではエトナ火山に登頂しようとしたが、あまりに危険であると阻止されて断念している。彼の作品には地質学、鉱物学から発想された内容が多く含まれていると言われる。

魯迅（1881年～1936年）（本名・周樹人）は現代中国で文学者・思想家と

魯迅（周樹人）が一緒に留学した顧琅と共に著で出版した『中国鑛産志』



して中国革命に貢献した英雄として評価されている。1881年に浙江省紹興に生まれ、1898年に南京にある江南水師學堂に入学したが、翌年の1899年、同じく南京の礦務鐵路學堂に転入した。ここは、鉱業や鉄路（鉄道）に関することを学ぶ学校で、魯迅はここで地質学、鉱山学、精錬学、測量学、化学などを学んだ。すなわち、魯迅は当初、地質学徒であった。

1901年に同校を卒業し、翌年に日本へ留学し、弘文学院に入学した。在校中の1903年、浙江省出身の留學生の雑誌、「浙江潮」に「中国地質略論」を掲載した。また、1906年には、同期生の顧琅と共に著で『中国鑛産志』を出版している。

「中国地質略論」の「緒言」は以下のような書き出しで始まっている。

「一国を窺うことは難しいことではない。その国に入り、市中をさがしてみても、自国で作った精密な地形図が一幅もないようなら、その国は文明国ではない。自国で作った精密な地質図が一幅もないようなら、文明国ではない。地質学は地球の進化の歴史であり、岩石の成因や地殻の構造などは、いずれも深く研究されている。これを中国に取り入れれば、そこには我々の生活を助ける無限の財宝がたくわえられていて、もともと我々の運命を支配する神秘不可思議なものは何も存在していないことがわかるであろう。このようにはっきり妄念を断ち切ってこそ文明は興るのである」。

宮澤賢治（1896年～1933年）

日本を代表する童話作家・詩人の宮澤賢治もまた地質学と鉱物学に深い関わりのある人物である。1909年（明治42年）に盛岡中学校に入学して以来、鉱物・岩石標本の収集に没頭し、1915年（大正4年）に盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）に入学後は、関豊太郎教授のもとで地質学、土壌学を学ぶ。卒業後は研修生となり、勉学・研究を進め、同修

了後、1920年（大正9年）関教授から助教授推挙を受けるが辞退した。

1921年（大正10年）花巻農学校教諭となり、地質学・鉱物学・岩石学・土壤学などの講義と実習を担当し、北上川河畔の「イギリス海岸」でしばしば野外実習を行った。彼の作品には至る所に、岩石や鉱物、地層や化石、さらには宇宙と空間が現われ来て、事実と幻想が一体となった独特のロマンティズムをかもし出している。

自然災害と地質学

世界にはさまざまな自然災害がある。

これらの多くは地学的現象であり、一般市民がこれに対処するには、地球科学的な知識を備えることが非常に重要である。とくに日本列島を含む地域は、世界でも有数の地震発生地域であり、東日本大震災の惨害は記憶に新しいところである。

現在、急務の課題として、南海トラフ地域を震源とする巨大地震の発生がある。南海トラフとは駿河湾から紀伊半島沖、四国沖を通り、九州東部の海底に延びる海溝状のくぼみである。海溝よりも浅く、谷の側壁の傾斜が緩いのが特徴で、舟状海盆とも呼ばれるが、本質的には海溝と

同じものである。ここでは、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込んでおり、それによってプレート境界型の東海地震、東南海地震、南海地震と言った巨大地震が過去に100年から200年の間隔で発生している。

今後、このような地震の発生する確率は、この先30年間で70%程度とされている。これらは単独で発生する場合もあるが、互いに影響を及ぼして連動して発生する可能性も高く、その場合には地震による直接的な被害に加えて、大規模な津波が沿岸地域に襲来するため、きわめて重大な被害が発生する。実際、1707年10月28日に発生した宝永地震は、この3つが連動して、南海トラフ全体が震動したM8.9の超巨大地震であった。この地震による津波は紀伊半島、四国の沿岸で最大25mに達し、甚大な被害をもたらした。

巨大地震を引き起こすプレートの運動は、戦後になって地質学的な研究により、明らかにされたプレートテクトニクスの一環であり、その動きを日常生活の時間のレベルで予測することは原理的に不可能なので、日頃から発生することを前提にした対応を十分準備しておくことが必要である。東日本大震災における被害を

一層増幅した原子力発電所の事故は、南海トラフの巨大地震においても当然懸念される。南海トラフの直近の御前崎に位置する浜岡原発やフィリピン海プレートの動きが活発な四国沖に近い伊方原発は最も警戒が必要である。学術的には日本のような大地震頻発国では、原発は当然全廃されるべきものである。

（2017年9月14日・公開フォーラム）

筆者略歴（かみや ひでとし）

1942年東京都生まれ。1961年開成高等学校卒業。同校在学中から地質学の研究に関わる。1972年東京教育大学大学院理学研究科博士課程（地質学・鉱物学専攻）修了。理学博士の学位を授与される。同学特別研究員を経て、京都大学理学部地質学・鉱物学教室助手、同大学院理学研究科助教授を歴任。

主な著書 『新版・化石の研究法』（共立出版、共著、2000年）、『堆積学辞典』（朝倉書店、共著、1998年）、『化石と生物進化』（東海大学出版会、共著、1995年）、『第四紀試料分析法』（東京大学出版会、共著、1993年）、『土と岩石』（東海大学出版会、共著、1982年）、ほか多数。

「養蚕唱歌」を歌う

―歌に込められた養蚕立国への想いと自負―

藤川琢馬（会員）



『養蚕唱歌』の表紙は物語る

私の手元には、原本ではないが明治後期の『養蚕唱歌』4種がある。図書館に所蔵されている原本は、出版後ゆうに100年を超えていて紙質劣化が激しい。「唱歌」であるので楽譜には違いないが、いわゆる楽譜ピースとは異なり、序文や歌詞の長さにより十数ページから数十ページにわたる冊子だと理解した方がいい。その中の1ないし2ページ分が楽譜である。

明治35年7月発行の『養蚕唱歌』には、全ページにわたって養蚕農家の生活や養蚕作業の光景が挿絵として描かれ、養蚕

2014年6月、関係者の努力が実って「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録された。以後、富岡製糸場は見学者で賑わったが、このところブームが沈静化していると聞く。世界遺産としての意義は、生糸の大量生産を実現した技術革新と技術交流を通じて、かつては一部の特権階級のものであった絹を世界に広め、人々の生活や文化を豊かなものにしたということにある。しかしその意義や見学の地はそれとして、世界遺産たらしめたわが国近現代史の一面を、歌を通じて振り返ってみたい。

養蚕の技術は、古代から蓄積された経験のうえに江戸期にほぼ確立され指導書も出版されてきたが、明治以降とくに近

代の科学的知見によって高められ、明治後期までに養蚕学校、養蚕業者、指導者たちにより教材が出版されてきた。わが国の開港以降養蚕の急速な振興は、明治期の国策とともに養蚕に係わった彼らの熱意、ならびに多くの養蚕農家の努力によるものである。生糸の生産量、輸出量のピークとなった昭和4年には、国内農家数600万のうちの実に約4割、220万戸で養蚕が行われた。これら農家の人々を、養蚕に馴染ませるいわば副読本ともいえるのが、本稿の主題「養蚕唱歌」である。明治期西洋文明の導入のなかで唱歌教育が進められ、やがて「鉄道唱歌」をはじめとするいろいろな唱歌が歌われるようになった時代である。

に親しみを持たせる努力がうかがわれる。ところがこの表紙には、どういふところか中央に軍艦が、下部に蚕が描かれ(図1)、末尾のページにはラッパを吹く兵隊さんが描かれている。

私は養蚕唱歌

の歌に気を取られ、表紙の図柄には注意を払わずにいたが、あるときはたと気が付いた。生糸・絹産業は長年わが国の輸出産業の中心で、明治以来わが国の富国強兵策を支えた産業であった。蚕と軍艦や兵隊さんとは密接につながっており、この『養蚕唱歌』はそのことを意識させ、あるいは自負を物語るものであった。これが発行された明治35年は、日清戦争を経た後、2年後に日露戦争が勃発する年である。朝鮮に対する清の支配権を排除し、遼東半島の租借権を得たにもかかわらず、三国干渉により涙をのみ、国民は屈辱感を味わった。列強に伍する力が必要だと、戦争への準備に駆り立てられて



図1 明治35年7月発行『實業教育 養蚕唱歌』の表紙

いたときである。

この軍事費調達に生糸・絹産業がどれくらい貢献していたのか、生糸・絹産業の経済的位置づけについて見ておきたい。明治初年から戦後に至るま

でのわが国の輸出品目を、計によって概観してみよう(数値、図示は詳細にわたるので省略)。輸出総額に占める品目別構成比率の上位は、長期の間に茶、生糸、絹織物、綿織物、船舶、鉄鋼、…と変遷していくが、生糸は明治初年から30年代まで輸出総額の40%前後を持続して占め、さらに大正後期に至るまで30%近くを占めていて、2位以下を圧倒している。その後、昭和10年代に再び40%を超え、ピークを形成する。絹織物の輸出も、明治20年ごろから伸長し、昭和20年の終戦に至るまでの間比較的安全的に、輸出総額の5~10%を占めている時期が30~40年間続く。従って、生糸

と絹織物の両者を合わせた絹産業製品は、明治初期から昭和10年代まで輸出総額のおよそ40%を保っていて、わが国の輸出が長年いかに特異的に、生糸・絹産業に頼ってきたかがわかる。わが国は開港後、茶や一部の水産品以外に輸出し得る特産品がなかった。それに代わる養蚕の振興は、官民挙げての努力が実ったものである。生糸がなければわが国は日露戦争も第一次世界大戦も戦えなかったであろう。もっとも、輸出による所得がすべて軍備拡張に使われたのではなく、西欧からの機械の輸入などにより、わが国の近代化に大きく貢献したことはいうまでもない。

日本の生糸輸出は、ヨーロッパの蚕病や米国の絹織物業の発展という有利な海外市場条件に恵まれて始まった。絹生産工程は、蚕種から始めて蚕を飼育し繭をつくる養蚕業、繭から生糸を取る製糸工程、生糸から絹糸をつくる撚糸工程、ならびに絹糸から絹織物をつくる織布工程の4業態から成る。開港後江戸末期には、蚕種および繭の輸出が絹類輸出の40%に達していたが、その後減少して明治10年代にはごく少量になり、既述のようにもっぱら生糸の形で輸出され、米国が生糸輸入大国として登場した。明治20年代わが国は、従来の主要輸出国の中国、イタリ

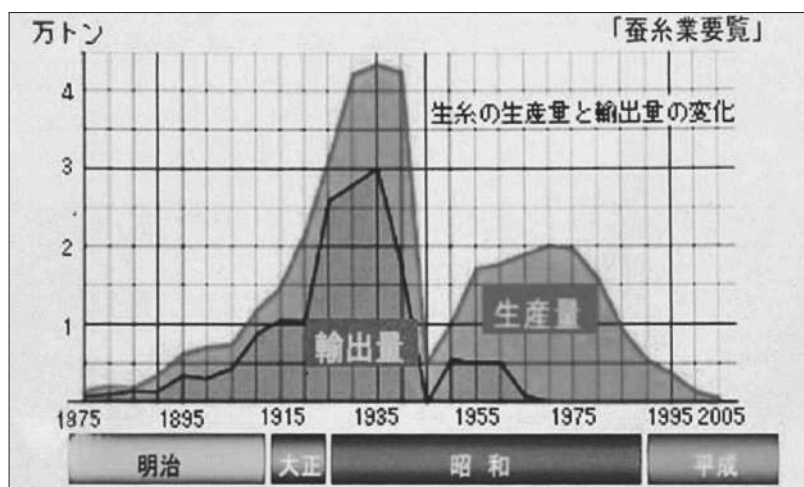


図2 生糸生産量と輸出量の変化（群馬県 日本絹の里展示より引用）

アを凌駕するようになったが、それは生糸の生産において、品質の劣る伝統的な座繰製糸から器械製糸技術の導入を進めたことをはじめとする品質改善の努力の結果であった（山澤逸平「生糸輸出と日本の経済発展」、一橋大学研究年報 経済学研究19（1975））。

明治時代初期からの生糸生産量との輸出量の変遷を見る（図2）と、生糸の輸出は明治初期から増え続け、前記輸出額に反映しているように、昭和初期に最大となった。この図の生産量と輸出量との差は、国内で使用される生糸だが、絹織物として輸出されるものが含まれている。生糸は、関東大震災による被害時期を除いて、ほとんどが横浜港から輸出され、明治前半期、横浜港の輸出総額における生糸の輸出額は3分の2を占めていた時期が続いた。しかし長年月の後の昭和40年、わが国は生糸輸入国となり、現在は主に中国からの輸入に頼っている。

わが国が国を挙げて、外貨獲得の最も重要な輸出品である生糸の生産と輸出にいかに関与したかは、その輸送網にも形跡が残されている。幕末から明治にかけて、群馬県、長野県、山梨県、埼玉県西部から絹の集散地八王子を経て横浜港につながる道は「絹の道」と呼ばれ、現在の国道16号線とほぼ同ルートである。生糸を輸送するため、まさに「シルク鉄道」といえる鉄道が整備された。高崎線（明治17年）、甲武鉄道（明治22年、現在の中央線）、上野鉄道（明治28年、現在の上信電鉄）、横浜鉄道（明治41年、現在の横浜線）、八高線（昭和9年）など

である。とくに、多くの養蚕農家が出資した上野鉄道は、蚕種や繭の輸送に利用された（Webより）。神奈川県下の繭も、地元製糸工場があったにもかかわらず、群馬の製糸工場に出荷された記録が残されている。

横浜開港後、鉄道が開通するまでは利根川舟運が利用され、活況を呈していた。舟運は鉄道を補完する形で、明治、大正時代を通じて命脈を保った（若林高子・北原なつ子『水の土木遺産』、鹿島出版会（2017））。

絹産業関連の唄（歌）

養蚕唱歌について記述する前に、絹産業の構造の全般に係わって、どんな歌があるのか、広く見ておきたい。全国的には多数の唄が伝えられているであろうが、太平洋に向かって門戸を開く横浜港を有し、養蚕から織布までの業態があった神奈川県下には、次のような民謡が伝わっている。

横浜の古民謡の記録を調査・分類した報告（平野正裕「横浜の古民謡」、『市史通信』第23号（2015・7・7））には、仕事唄の中に、横浜が輸出港である茶のお茶場唄と並んで、糸取り（糸繰り）

唄、製糸場唄、キビソ切唄など製糸業に係わる唄が記録されている。平野氏によると、「糸をひくならヨ、太より細く、信州一番の十四中」と歌う糸繰り唄は、輸出生糸の最低品位である「信州上一番格」の細糸（十四中）づくりを指した歌だという。糸繰り唄と製糸場唄については同じ平野氏監修・文による「横浜ふるさと歌物語」（『マイウェイ』No.69、はまぎん産業文化振興財団（2008））に楽譜が収載されている。

『かながわのうた』（神奈川県教育庁文化財保護課編・著、かもめ文庫（昭和54年））には仕事唄として、半原の管巻唄、機織唄、糸とり唄が紹介されている。同書によると、半原は農地が少なく雑穀しかとれないやせ地で、他に仕事を持たなければ生計が立たず、男は大工、女は撚糸業に従事した。撚糸女工の工賃は低く過酷な労働で、それでも信州・甲州あたりから年季奉公の出稼ぎが来ていたという。撚糸作業の一つ、管巻きは、糸束を張った紡ぎ車に似た管巻きという道具を使い、長さ20センチほどのシノ竹に絹糸を紡錘形に巻き取る作業である。機織唄は撚られた生糸で反物を織るとき唄で、糸とり唄は繭を煮て糸を引き出す準備をし、しゃくし掃きなどを使って緒糸（い

とさき）を探し出し、糸巻に巻いていくときの仕事唄である（以上、『かながわのうた』による）。

これら仕事唄は、作業の単調さ・過酷さを紛らわしたり、リズムに乗って作業の効率を上げようとするもので、歌詞の多くはやや面白く、あるいは男女の機微を表現した自然発生的な唄である。従って、西洋音楽の流れをくむ教育的な創作歌曲である唱歌とは、全く異質なものである。

養蚕に係わる文部省唱歌がある。一つは明治43年発行の『尋常小学読本唱歌』に収載された「るなかの四季」で、現在も愛唱されている。「♪道をはさんで畠一面に」で始まる春の情景を描写した歌詞の最後は、「♪あちらこちらに桑つむおとめ 日まし日ましに はるご（春蚕）も太る」と歌われる。もう一つは大正元年発行『尋常小学唱歌 第四学年』に初出し昭和7年『新訂尋常小学唱歌 第四学年』においても再収載された「蠶（かいこ）である。さわやかなメロディーで、5月初めから心を尽くして蚕を育ててひと月余り、その甲斐あって繭が山のごとくできた。努力すれば報われるという内容の、典型的な文部省唱歌である。ここで、横浜・磯子区在住のギタリス

ト、篠崎洋子さんを紹介しておきたい。

篠崎さんは長年養蚕文化の伝承に音楽で貢献する活動を行っており、養蚕の盛んだった群馬県中之条町の旧六合村と交流を続けている。平成28年10月、明治期の養蚕唱歌を甦らせようと、明治44年発行の『養蚕唱歌』を紹介した歌集・記録集『お蚕は歌う 甦れ、明治末期の「養蚕唱歌」平成の世に』を発行し、この中に養蚕に係わる自作の何曲かの歌も収載し、演奏活動を行っている。それらのうちの1曲に「富岡製糸場唱歌」がある。江戸末期以降のわが国の養蚕・製糸の歴史と意義に触れ、発展し近代化遺産となる過程を全11編の歌詞に簡潔に表現した。また篠崎さんは、絹産業遺産群の一つとして登録された養蚕学校、高山社（現藤岡市）の輝かしい貢献を、設立の歴史を含めて歌にした。なお、藤岡市には小グループながら「養蚕唱歌同好会」なる会も発足したと聞く。

唱歌の成立と養蚕唱歌

では、養蚕唱歌がどのような背景で作られたのか、まずわが国の近代化の出発点について触れておきたい。わが国に西洋音楽が普及する入口となったものは軍楽、

讃美歌、それに唱歌であった。明治新政府は日本の近代化を推し進めるため西洋文明の導入を計ったが、富岡製糸場の設立もその一つであった。この設立年と同じ明治5年、国家発展の基は教育にあるとして、近代制学校制度を取り入れた「学制」が發布された。このなかで小学校の場合、読本や算術などと並んで「唱歌」という教科が定められたが、実際に唱歌教育が行われるようになるには明治14年の『小学唱歌集』の発行を待たねばならなかった。この唱歌集には「蛍（の光）」「蝶々」など、よく知られている歌が収載されている。

西洋音楽を耳にすることのなかった当時の児童や人々に対して唱歌に馴染ませるためには、音楽のうえで工夫があった。それは、メロディーを構成している「音階」である。すなわち、西洋音楽は長調の場合「ドレミファソラシド」でできているのに対し、日本の伝統的音楽は第4音ファと第7音シを欠いた「ドレミソラド」でできているので、唱歌が4音と7音がない音階、つまり「四七抜き音階」であれば、比較的馴染みやすかったのである。現在もなお、演歌の多くが四七抜き短調で作られており、昔も今も日本人は変わっていない。

明治末〜大正初めになって、「春の小川」「朧月夜」など、現在私たちが愛唱しているいくつもの唱歌を収載した文部省唱歌集が編纂されたが、それ以前にも民間で多くの唱歌集が発行された。また、その過程に日清戦争（明治27〜28年）、日露戦争（明治37〜38年）が起り、「敵は幾万」「戦友」（♪ここはお国を何百里〜）など、多くの軍歌が人々により歌われた。これらは軍国唱歌といえる。軍国唱歌の多くは上述の四七抜き音階であると同時に、もう一つの特徴、それは付点八分音符と十六分音符の組み合わせが繰り返された、ちようどピョンコ・ピョンコと飛び跳ねるように作られているリズムである。「故郷の空」（♪夕空晴れて秋風吹き〜）や童謡「兎のダンス」（♪ソラソラソラ兎のダンス〜）のリズムがそれで、俗に「ピョンコ節」といい、ピョンコ節は調子がよく、単純で憶えやすいため人々に親しまれた。

学校教育から出発した唱歌は情操教育のためというよりも、多くの場合富国強兵策の一環とする教育が最大の目的で、さまざまな種類の唱歌、唱歌集が作られた。内容から分類すると、道徳・修身唱歌、偉人唱歌、歴史唱歌、鉄道唱歌、地理唱歌、産業唱歌などであり、産業奨励

唱歌の代表が「養蚕唱歌」である。明治時代の輸出品の主力が生糸・絹織物だったからにはかならない。「養蚕唱歌」も四七抜き音階とピョンコ節を土台にしているものが多い。唱歌の著者（作詞者）は、児童や人々に早く養蚕に親しんでもらいたいと、必要な実地知識だけでなく、蚕業の意義、経営の心構えまで歌詞に表現し、作曲者による馴染みやすいメロディーに載せている。

入手した養蚕唱歌の概要

『養蚕唱歌』が何種発行されたか不明であるが、神奈川県立図書館には明治34年発行のもの2点、35年発行のもの1点の、3点の『養蚕唱歌』が所蔵されている。手元にあるもう1点、明治44年発行の『養蚕唱歌』については後記する。

養蚕唱歌の直接的な目的は養蚕法を教えることにあるが、4点の『養蚕唱歌』は、蚕の飼育法を説いた歌詞の主部をはさんで、前後にそれぞれ導入部と締めの部分といえる歌詞で構成されている。歌詞は七五調4句を一単位として数十番のものから百番以上のものまでが作られている。唱歌の最大ヒット曲「鉄道唱歌」（東海道編、♪汽笛一声新橋を〜）が1

つのメロディー譜に対して七五調4句の歌詞が計66番もあるように、何十番もの歌詞があるということは、教育唱歌としてはふつうのことである。以下に4点の『養蚕唱歌』の概要を記す。

①『教育資料 養蚕唱歌』（明治34年1月発行）

2／4拍子、四七抜き・ピョンコ節。七五調4句×112番の歌詞。

序文で著者は、養蚕の中心地群馬県で生活する小学校児童に養蚕の知識技能は必須との考えから、当時「鉄道唱歌」（明治33年）など唱歌が教育資料として多く発行されているのを見て、養蚕教育の唱歌を作ったと記す。俳句・短歌を織り交ぜ、少しでも情緒を加え親しみを増させようと努力している。導入部と締め部分の内容は次のようである。養蚕業・製糸業はわが皇国の富強を進める柱であり、父母や師の教えを守り、徳と智能を生業に注ぎ、1年を通して養蚕の学究に励み、これぞ君に忠義、親に孝の道である。かくして皇国の光は輝き、自らも花が咲こうと説く。そして上野内の養蚕学校、製糸場を並べ挙げ、上野が国内随一の養蚕国であることを誇る。

著者（作詞者）と作曲者は美土里村

（現藤岡市）の蚕種業者で、県内蚕糸業の要所である新町紡績所、富岡製糸場、甘楽社、碓氷社、交水社、高山社、順気社を歌詞に織り込んだ。著者は11年後、今度は一般向けに後記④の『実業教育 養蚕唱歌』を公刊した。

新町紡績所（高崎市）は富岡製糸場（富岡市）と並ぶ官営の工場で、製糸に適さない繭やくず糸を紡ぐ、日本人の手で建設された最初（明治10年）の機械化大工場で、そのほかは養蚕学校である。

なお、「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産に推薦されたのは富岡製糸場と高山社跡（藤岡市）、田島弥平旧宅（伊勢崎市）および荒船風穴（下仁田町）である。

②『養蚕唱歌』（明治34年3月発行）

2／4拍子、部分的に四七抜き・ピョンコ節を使用。七五調4句×48番の歌詞。表紙近くの見開きに、蚕の成長図鑑が

きれいなカラーで描かれている。歌詞では、飼育過程を追って注意点を与え、繭の販売、製糸場から輸出先についてまで触れた、一般農家向けの内容である。しかし、養蚕業の意義を述べる固苦しさはなく、季節に春が来、いよいよ養蚕休暇に入るという季節感と心の準備が導入部

となっている。締めの部分では、いよいよ繭は製糸場に出荷され、生糸はサンフランシスコ、ロンドンへと輸出され、御国の花と輝く。学校も再び始まった。忙しくて学業の暇がなかったが、老いるのは早いから心せよと諭す。

この『養蚕唱歌』の発行所秀英舎は現大日本印刷と思われる。出版社が企画・制作した『唱歌』で、作曲は日本最初の私立音楽学校を設立した著名な音楽家山田源一郎である。

③『実業教育 養蚕唱歌』（明治35年7月発行）

養蚕唱歌として甲號、乙號の2曲が添えられていて、めずらしい。読者が好む方で歌ってもらいたいと願っているからには、歌への入れ込みも強いのであろう。甲號は2／4拍子、四七抜き・ピョンコ節、乙號は4／4拍子、四七抜き。七五調4句×24番の歌詞。

著者（作詞者）は蚕業講習所所長で、かつて220頁、定価50銭もの大著『蚕教』を出版し、養蚕と栽桑の方法を詳しく教えている。従ってこの『養蚕唱歌』の方は歌詞が短く簡潔で、児童にも家庭にも適切な平易な内容にしたと述べる。養蚕農家の生活情景が親しみやすい挿絵

で全13ページにわたって描かれ、生活と養蚕とが一体となっている。作曲は東京音楽学校助教授の音楽家である。

導入部では、蚕をわが子を育てるように飼えば蚕は恩に報い、生糸が後には国を護る軍艦となり晴着の紋付ともなる、と養蚕の勧めを述べる。これにより、本『養蚕唱歌』の表紙に軍艦と蚕が描かれ、裏表紙には海軍のラッパ吹きが描かれている理由が理解された。締め部分の「繭とり」では、(家内総出で努めた甲斐あって)良い繭が取れ、(ご苦労さんと)酒・肴、子どもには団子や安倍川餅と挿絵が描かれ、努力すれば報われると諭されるが、この挿絵は何ともほほえましい。

④『実業教育 養蚕唱歌』(明治44年10月発行)

2/4拍子、四七抜き・ピョンコ節。七五調4句×131番の歌詞。

①の著者の集大成の大作で、教本の対象は①が児童、④が実業と異なるが、①と類似の構成をとる。導入部で養蚕の意義、富国の訓戒をしっかりと教え込み、中国、イタリア、フランスとの競争に勝たなければならぬと説く。主部で飼育の注意点と実地の技術知識、桑や衛生管理について触れ、最後の締めで経営の心

構えを述べ、国の富を増すには養蚕業に勝るものはなく、蚕種の安物買いをせず、他人や他人の桑を当てにせず、流行に乗らず、飼育法の研鑽を怠らず、家内で手堅く経営することを説いている。養蚕法においては全体として、化学的、生物学的、衛生学的知識を与えた。④は前記3種に比べて養蚕法をいっそう丁寧に説明しているが、項目ごとにそれらの要点を短歌にして記し、硬さ・味気なさを補おうと努力している。上毛新聞記載の解説によると、作曲者は高山社とのつながりが深く、高山社の養蚕法である「清温育」を反映しており、藤岡市が養蚕教育の中心だった証しという。原本は、大正3年高山社養蚕学校を卒業して養蚕の先生になった方から、旧六合村(現群馬県中之条町)の養蚕農家であった関徳三郎氏の父君がもらい受けたもので、前記篠崎洋子さんから紹介されたものである。

①④のいずれの著者も特徴が出ていて、互いに模倣的な感じはない。

養蚕唱歌は歌われたか

明治時代は知識の時代といわれる。西洋の技術・知識の導入に国を挙げて注力した一方の、国内の基盤固めの一つは学

制の発布・整備であったが、「唱歌」がその結果生まれたことは既述した。養蚕唱歌は地理唱歌などと同様教育目的であるので、教えるべき知識を入れ込むためにはそれだけの長さの歌詞が必要である。66番あった「鉄道唱歌」(東海道編)が人気を博し、日清・日露戦争により隆盛した軍歌はそのストーリーが10番、20番になることもよくあることだった。

歌詞の長さに関しては、その時代はまだ伝統的な、いわば「耳の文化」というべき時代にあった。現代は文字や画像を見る「目の文化」といえる。盲目の瞽女さんが何時間かかる「段物」を演じ、村人がじっと耳を傾ける社会が生きていた時代であり、「軍人勅諭」(明治15年)や「教育勅語」(同23年)の暗唱や奉読がなされた時代である。この文化は歴代天皇の名をそらんじた終戦まで続いた。

だからといって、何十番もある養蚕唱歌が何十番も歌われただろうか。「鉄道唱歌」や「軍歌」のストーリーに比して、知識技能を教えることが目的の「養蚕唱歌」の歌詞は決して面白くはない。『養蚕唱歌』①の著者は序言において、その土地に生活するうえで必須な知識技能を授ける必要性を説く一方、「此書歌詞冗長に過ぎ児童をして一々唱記せしむべか

らず」とも「実事に重きを置きたれば風韻に欠く」ともいつている。③の著者は、「平明典雅なる辞藻を…優美快活な曲で歌えば自然と養蚕の基礎が身に着く」と述べる。④では、養蚕法を「七五の調に整へ、同窓の八木沢道三に作曲を乞ひ、独り竊かに唱歌しつゝありしに、偶々、知友の来るありて、これは面白し摺巻として人に頒たば益する所多からん是非に是非に」といわれて公にしたという。著者たちは、唱歌を無理やり暗唱させることまでは要求していない。養蚕唱歌の歌詞は七五調に整えられている。この定型は、日本語の言葉が心にすくと入ってくる最も優れた形式で、一般に唱歌や歌の歌詞は七五調でできているものが多い。一番の目的は、歌にすることで養蚕に親しみが増し、歌っていれば自然に覚えれるという考えである。

次に養蚕唱歌のメロディーに関して、これを考えるヒントは「鉄道唱歌」（東海道編）である。親しみやすく、繰り返し歌っても飽きが来ない、優れたメロディーが付せられているかどうか。「鉄道唱歌」の場合、多梅稚の作曲と、ほとんど知られていない上眞行の作曲とがあり、両者ともヨナ抜き音階だが、広く歌われているのは多梅稚作品である。多梅稚の曲は

2拍子のピョンコ節で調子がよいうえ、比較してより近代的で、移動ド音を中心に低音から高音までのメロディーの流れがスムーズで変化も多く、山場がありダメ押しの山場もある。ひるがえって『養蚕唱歌』①④（全5曲）はどうであろうか。単純な曲ほど作るのが難しいものである。③には甲乙2曲の楽譜が収載され、著者は前記したように、優美快活だと自賛している。本稿では全5曲の紹介はできないが、おおかたの評価はどうだったであろうか。

ではどれくらい多くの人が『養蚕唱歌』を手にしたであろうか。④の著者は再版序において、「明治44年に発行して以来、半年も経たぬうちに初版が尽きて、…発行部数が多くないにせよ、…再版の申込さえ200部に達するに至ろうとは予期しなかった」と述べている。明治末頃の養蚕農家戸数は150万戸程度で（大正6年186万戸の統計数値あり）、そのうちのたとえば1%近くが『養蚕唱歌』の所持者になったととりあえず考えるのでは、東京の出版社も発行し産業奨励唱歌というジャンルがあったということにしては少なすぎるであろうか。明治30年頃の1円は現在の2万円に相当するといわれ、『養蚕唱歌』の値段（①④の定

価は5〜8銭と表示されている）は現在の1000〜1600円となり、安くはない。高山社など養蚕学校等を通じて販売されたケースも多かったのではなかろうか。

養蚕唱歌はやさしい歌であっても、民謡の仕事頃と違って仕事中に歌うものではないし、一般の人々や児童はおおかた楽譜を読めず、聞き覚えでしか唱歌は歌えないのが実情であろう。それに、指導者についても五線譜を読める人はめったにはおらず、養蚕学校で特定の養蚕唱歌を教え歌わせたということは考えにくい。私には、『養蚕唱歌』は養蚕の常識を与える実用書ではあるが、国の経済を支えている養蚕への誇りと貢献している自負とを与え、『養蚕唱歌』を所持することは、社中の連帯と精進の証しであると感ずることが最大の価値だと思っている。

養蚕唱歌を歌う

前記4点5曲の養蚕唱歌に対し、その出来栄えに甲乙をつけることは難しい。私は、これらの曲を何度も歌っているうちに、次第に愛着を感じるようになっていく。

本稿では養蚕唱歌の実際として、歌詞

明治34年1月発行『養蚕唱歌』から

瀧上豹三郎作詞

- 1 昇る旭日と諸共に
皇国の光を輝かす
道は数多ぞ敷島の
日本錦を綱にして
- 2 世界の富を引き寄する
芸に励むも其道の
一と悟りて尽すなる
養蚕業に製糸業
- 3 改良進歩の功を積み
輸出の高を日に増して
皇国の富強を図るこそ
皇国の人の務なれ
- 111 学理を究め実験を
積みて飼育に勉むべし
是ぞ御身等が君に忠
親には孝を尽す道
- 112 道を務めて撓まずば
皇国の光輝かし
我が身にも亦花咲かん
勉めよ励め稚児櫻

（付記） 富岡製糸場等の世界遺産保存・活用推進事業の一環として、平成28年6月26日上毛新聞社は「絹の詩」の作品募集とともに、「地域に残る絹の歌」の発掘を朝刊紙面から読者に呼びかけた。その社告の前日、私は群馬県水上市で開催された、首都圏の貴重な水源を讃え護つ

ていこうと謳う合唱組曲「利根川源流讃歌」を歌う大きな会に参加していた。この組曲の作詞者で、大会実行の代表者である群馬県の知人から、イベントの記事が翌日の朝刊に載ることを聞き、帰路に購入して、私はこの社告を偶然目にした。後日新聞社に『養蚕唱歌』の情報提供をして、わずかながらお役に立つことができたが、本稿の出発は、その偶然からによるものである。（平成29年12月記）

養蚕唱歌

甲號
(明治35年7月)

練木喜三 作歌
前田久八 作曲





エレベーター増設問題

北京市住宅建設委員会の統計によれば現在全市で古い集合住宅へのエレベーター設置工事は459基が着工し、274基が運行を始めたという。着工した459基のうち、市の不動産物件が280、国や軍の物件が179。そのほか、一部で階段の手すりに設置する一人用の昇降機も設置された。

市は審査許可手順を施工図面の審査と設置報告、検収のみと簡素化したほか、一基あたり24

万元の補助金と工事に伴う配管移設工事費に対する補助金政策により増設を後押ししてきた。

エレベーターの増設については3つのモデルがある。「代建租用」は委託された施工主が資金を出して増設から保守まで行い、定期的に使用料を徴収すること、住民の初期負担を回避できる。「不動産権利者出资方式」は増設資金を不動産の権利団体や管理者が負担するものだ。

市では2020年までに1000基以上の増設を目指し、今年もまた、400期の着工と200期の完成を目標にしている。これに必要な新技術の開発のため技術系企業の参入とを促し各方面と連携する方針である。

『新京報』2018年1月17日

山村の児童に寄り添う

両親の出稼ぎにより農村山村部に残された「留守児童」に寄り添う「童伴ママ（原文…媽媽）」プロジェクトが四川省、貴州省の20の県、203の村で

進行している。10万人の児童が恩恵を受け、1272人の無戸籍児童が戸籍を得て、329人の孤児が生活保障を受けた。また1869人が生活保障や臨時保護を受け、470人の不登校児童が学校に戻った。2017年家庭訪問の実施数は8万余人。これらは1月16日中国扶贫基金会の秦偉秘書長補佐が発表したプロジェクトの成績表だ。プロジェクトは今年江西省の羅霄山区、雲南、四川、貴州省境の烏蒙山区など多数の留守児童が広い地域に分布する特別貧困地区にも進軍する。

「童伴ママは同じ村から選ばれるが、子どもの遊び相手ができるだけでは不十分。平均学歴が低い中、童伴ママとしての資質を如何に養成するかがより重要だ」と秦氏は言う。子どもの安全や健康を守ることができかどうか見定めたいという。

例えば「国は孤児手当や疾病医療保障など児童福祉の様々な政策を実行しているが、利用率が低い。親代わりに子どもの世

話をする祖父母が政策やその利用法を理解していないからだ」と中国扶贫基金の劉副会長。童伴ママには国の政策や内容を理解した上でそれが必要な児童を掘り起こす役目を果たしてもらいたいと語った。

現在四川省と貴州省の203の村に児童福祉の基地として児童の家が設けられ、様々なサービスを提供している。たとえば留守児童はここで絵画や読書や積み木遊びができる。プロジェクト責任者の王珞璋氏は、夏の溺死、冬の火災、さらには性犯罪から留守児童を守るため防災や安全知識教育の必要性を語る。

この2年間、このプロジェクトは四川省の共産党青年団、貴州省民政庁と連携して2300余万円の資金を集めた。その活動は、地方政府、協賛団体、児童、保護者の支持を得て、両省の600の村に広がっている。

『工人日報』2018年1月18日

医師不足小児科の現場

1月7日天津市海河医院の小

児科の医師が勤務過剰で全員病に倒れ、診療停止になった。広東省南方医科大学珠江医院の小児科の医師は風邪の重症化で話せなくなり、診察室に重要事項を貼り、記号を指して患者の両親と意思疎通する事態となった。北京児童病院でも70を過ぎた医師が急診療を助けている。

昨年末から猛威をふるうインフルエンザやその他の感染症の流行で多くの小児科は患者が溢れ、夜中に高熱で救急外来を訪れても4時間から6時間は待つのが常態化している。

1月15日の昼過ぎ、広州市婦女児童医療センターの外来受付では1時間に137人の患者が訪れ、そのうち20人が発熱患者だ。ロビーでひきつけを起こし緊急措置を受ける患者もいる。

この日正午から2時まで、入院病棟の王医師は34人の患者を診察。発熱、せき、下痢などの子どもたちを1人1人診察する王医師を保護するのは二重のマスクだけだ。診察中1人の女性

血球数は正常ですか」ときく。

王医師は答えず待つように諭す。1人の診察が終わり、王医師が検査票を見て「今回の結果は正常です」と告げると、前回の数値上昇の原因は何かと詰め寄る。その時次の患者が入室。王医師が「今は心配ないですよ」と告げると母親は去っていく。いつものことだ。インフルエンザの流行

時期には1日70〜80人以上の患者のほか、泣き叫ぶ子どもや興奮気味の親と平常心で向き合わなければならない、と王医師。

夜19時から22時の夜間診療に余医師が3時間で診察した37人の半数はロタウイルスだった。子どものロタウイルス感染を告げられた一組の夫婦は、原因は何かと詰め寄る。検査するかときくと、検査用の薬の安全性を心配し、部屋を出たり入ったりした挙句、明日まで病院においてもらえないかと言いつくす。

翌日、広州市児童病院の専門外来の小児血液病の専門家として有名な何医師は午前中だけで29人の予約患者を診た。ほとん

どが市外からやってくる難病患者だ。1人の診察に時間と神経を使う。各地の大病院をまわっても症状が改善せず何医師のもとにやってきた5歳の鈞欽ちゃんは2週間ごとに貴州省から父親と診察に来る。処方薬の効果が見え、この日も検査結果は良好で双方に笑顔がみられる。

李医師は小児科医になって18年。同期は20人いたが、今も臨床に残るのは彼女1人だ。小児科は過酷だが「待遇が低いこと以外問題ない」と言い切る。この2年ほど患者の家族から暴言

を浴びたり、怒鳴り込まれたりということが続き、多くの人が傷ついた。患者の親に仮眠室のドアを蹴破られたこともある。しかし、大多数の親は話の分かる人たちだから争わないようにしている

と李医師は言う。患者と争えばその感情が次の患者に影響するからだ。

王医師は8年前に小児科医になった。30人はいた同期が今では10人に満たないが、子どもが好きだから続けているそうだ。

2016年5月国家衛生計画生育委員会は他の幾つかの機関と合同で『児童医療サービスの改革と発展の推進に関する意見』を発行、2020年までに児童1000人に対し、医師0.69人の達成を掲げた。現在その数値に対し小児科医は9万人不足している。広東省全体では2016年の調査によると小児科医は8200人、その仕事量は他の科の1.8倍、平均給与は他の科の50%とされている。

この2年、国も広東省も小児科医師の育成に力を入れ、今年広東省では1360人の産科小児科医が誕生する。また小児科医師に対する奨励金制度や大学の小児科専門課程設置を推進、重症妊産婦や新生児救急センターの拡充を図る。広州市では6歳以下の医療サービス価格を30%値上げする。市民もまた彼らの過酷な勤務状況を理解し、患者としてのマナーを学ぶべきだ。医師と患者は共に病と闘う戦友なのだから。

【羊城晚報】2018年1月22日

コラム

《腰折れ文》七、

渡邊澄子（会員）

えっ！ あの子、もう七十二歳になるの？ あの子とは吉永小百合のことだ。教師になつてなるつもりなど全くなかったのに、始めは高校教師。吉永小百合はそのときの「教え子」だった。と言っても既にスクリーンの花形だったので登校はめったになく卒業不可。頭のいい彼女は何とか言う大学受験資格試験合格で早稲田入学を果たした。以後の活躍ぶりは皆さんご存じの通り。ライフワークとして続けられていた原爆詩の朗読に感動して、原爆問題を広く知るところで朗読はさらに味深くなるだろうと、原爆文学論の拙著に手紙を添えて送ったのはもう十数年以上も前のことになる。彼女からは感謝と原爆詩朗読の覚悟を丁寧に述べた手書きの返事がきた。人格においても優れた俳

優である。こんなことを思い出したのは「東京新聞」（一月一日）の一面全面にわたっての百二十本目の出演映画「北の桜守」紹介記事を読んだ事による。この映画の舞台は本協会企画のツアーに参加して行った樺太（もう一度行きたい）で、「戦後の大変な時期を必死で生きてきた人たちのことを、映画で残すことができたのが、女優としてうれしい」、「戦争を二度と起こさないために、少し意味があることができたかなと思います。忘れてはいけないことがあると、改めて感じました」の彼女のコメントからも広義の反戦映画らしい。三月の公開を待って観に行くつもり。待ちどおしい。吉永小百合出演映画の全面紹介の裏面は平田オリザと斎藤美奈子の「新春対談」が占めていた。

明治維新から百五十年の現代を「言葉とコミュニケーション」「教育と創造性」「地方の魅力づくり」から検証した対談だが、驢尾に付せるような発言の期待は裏切られた。呆然、愕然させられたのは、阪大生が一年間に読んだ小説は一冊と言う学生が一番多く、ゼロもいたという現実が語られていたことである。まさかそこまで来ているとは知らなかった。自分の首が絞められているのにはほんと「一強独裁」政治を支持する理由が分かったような気がしたが、「愛国者」の私は絶望感に打ちひしがれた。

高校時代、特にロシア文学と中国文学にのめり込んだ時期があった。明日は物理の試験がある日だったので勉強しなければならなかったのに、読みかけた小説を中断できず、徹夜して読書にふけてしまった。翌日、どうしようかと友達に相談したら、両隣の友人からカンニングを勧められた。三問のうち、一問はわかったが他の二問が分からな

い。友達が見やすいように試験用紙をそっと寄せてくれた。困ったことに二人の答えが違ふのだ。どっちが正解か判断できない。えいっと白紙で出した。翌日、呼び出されて理由をきかれた。新卒の男の教師だった。私は、「人生不可解」と人生問題に悩んでいると答えた。先生から今週の日曜日宿直だから話しに来いと言われ、行った。彼は優しく誰もが通る青春の悩みを語り阿部次郎の『三太郎の日記』を貸してくれた。白紙を出した私の物理は優だった。古き良き時代のお話し。今の学生は何を抛り所にして生きているのだろう。電車で七人のうち六人がスマホに夢中だ。覗いて見ると私には理解不能なマンガみたいだ。福島原発事故は未だに未解決で「レベル7」風化の危機感、専守防衛を骨抜きにする「航空母艦」保有問題、原因究明なく異常事態が日常化の沖縄、核兵器禁止条約に不参加の日本政府等々、喫緊・重要課題が山積しているのに。ああ、苛つく。

陶々俳壇

選後評

馬場由紀子

篠原鳳作と無季俳句

鈴木昭治郎

兼題…「裏白」「池」

席題…団圓を思わせる

☆寒鰯を売る店員の声高し

長野宏太

賀状書く幼きころの顔浮かべ

〃

寒鯉の池に動かず水の黙

橋本紅杓

○新年や合成樹脂飾り歯朶

〃

○立冬や真赤に映える池の鯉 (由紀子)

佐藤若杉

○三十年父の夜着きて夢むすぶ (和水)

〃

読み初めや徒然草を一日にて (南山) 戸部まもる

喰積や我が一族のつつがなし

〃

四世代老いも若きも初笑 (まもる)

岡和水

☆○池面走る冬の雲追ふ鳥の群れ

〃

裏白やほろ酔ひ気味の雨の客 (紅杓) 馬場由紀子
春の月見てゐる漢ふところ手 (宏太) 〃

☆最高点 ○由紀子選 (一) 各特選

裏白の揺れて心のやすまれり

若杉

裏白が揺れるとは尋常ならざる現象ではないか。それが何故心休まるのか、難解な句であったが、南山さんの解釈で明らかとなった。裏白が揺れるのは、普段は静かな暮らしぶりだが、お正月に人が集まり賑やかになる。その様子を裏白を揺らすことによって表している、という幸せの一句である。

成人式晴着著やうと著なずとも

紅杓

成人の日にショッキングな事件が起こった。予約していた晴着が届かず泣く泣く晴れの日を台無しにしてしまった二十歳の女性が大勢いた。大人になるとその日が裏切りの日となるのは何と気の毒なことか。それでも、大人になるという本来の意味を考ふる良い機会にしてほしい。

池の端に春待つ雀あいさつす

宏太

可愛い句だ。生き物を楽しむ作者の人柄が伝わってくる。いつもの散歩コースのいつもの公園で、いつもの池にいつもの雀たち。しかし年が改まった今日の挨拶はいつもと違う特別なもの。雀と交わす御慶なんて童話の世界のようだ。春から気持ちよく優しくなる一句である。

初日記書きこむことは孫受驗

まもる

孫には責任が無いから可愛いだけだ。なんてことをよく聞くのだが、作者は、新年初日の日記に孫の受驗のことを記している。孫を猫可愛がりするお祖父ちゃんではなさそうだ。このお祖父ちゃんにエールを送られたら孫も頑張るを得ないだろう。健康に留意して受驗を乗り切って欲しい。

裏白や晴着の笑みの孫娘

和水

裏白という季語と晴着には、作者の孫娘を言恍々気持ちが入められている。これ迄おしゃれには無頓着だった孫の結婚が決まって、今日は取り分け美しく着飾っている。美しい孫の行く末に幸あれと、長寿を願う正月の飾りである裏白に思いを込めているのだろ。

しんしんと肺碧きまで海のため

この句は鳳作の代表作である。名前もこの無季句についても全く無知だった愚生が、開眼できたのは我が師、由紀子先生のお陰である。

切っ掛けは昨年8月、兼題「宝」の拙句

卒寿なる凡夫の宝もはや反故が、無季なることに気付き、慌てて修正、

九十歳宝の硯洗いけり (本誌昨年10月号)

となったが、無季でも、冒頭句のようにグッと自分引きつけた句は力強いものを感じるとお教え頂いた。

そこで、図書館で篠原鳳作全句文集(1980・

5 沖積舎を借り彼の為人や作品の一端に触れてみた。鹿児島生まれ、1905〜1936。

掲句は1934年、連作「海の旅」五句中の一句。宮古島と鹿児島を往復する中で生まれた。その

一年前、鳳作は同人誌「傘火」を創刊、新興俳句運動に注力した。彼曰く「詩神と単純化の鞭として

十七詩型があれば他のものは皆無視していい」と。

俳句は季語が必要は常識。されど愚生も今では無季句も肯定されるべきと思うようになった。

鳳作には有季句も沢山ある。左記はその一つ。

浜木綿に佇ちて入日を押みけり

ところで、昨年9月句会の兼題「神」に就き、小生は次の無季句を提出した。大自然の前に自ずと平伏した経験があったからである。

神に地に跪きたりゴビ砂漠 (本誌11月号)

漢詩に親しむ
其一三題噺 漢詩・インター
ネット・中国語奨学生

藤木英夫（会員）

協会、福富さんへの味も素っ気もない事務連絡メールに、拙作の漢詩を添付したところ、印刷して談話室に掲示して下さり、それが編集委員の方の目に触れて、ここに紙面を頂く事となった。

さすがにこの時は実感としてそう思った。しかし、作詩したい思いは強まるばかり。

考えてみれば、幼児は片言で話をしながら言葉覚えるのだ。かまうものか、作りたい様に作ろうと考え直したら、気が楽になり状況は変わった。しかし、片言で話す（駄作を積み上げる）に

退職後、新しい経験が増える中、複数の動機があつて漢詩に親しむ様になった。特に、つい

も、まだ何も頭の中にない身には「外部の脳」が必要で、私のそれは電子辞書と、電子版漢詩データベースだった。実はこれ等は

う思いがつのり、すぐに作詩を始めた。当初は怖いもの知らずで、夢中になって作り続けたのだが、半年程で壁に突き当たる。

今の時代だから使えるので、ほんの十年前には入手不能だったろう。この間の、これら電子機器とアプリケーション・ソフトウェアの進歩は目覚ましい。

『唐詩選』等の詩集を読みこなし、暗誦出来るくらいになつてから作詩を始めるべきであり、いきなり絶句や律詩を作り出すのは無謀と言われている。私も

実は、この方法で作詩をくり返す内に自身の脳も鍛えられたし、「外部の脳」との連携も上

手になって来たのではないかと自惚れている。何より嬉しいのは、名作唐詩等を作者に寄り添って鑑賞出来る様になり、以前より深く楽しめるようになった事だ。そして、漢詩を「漢字の詩」として、そのまま鑑賞する事の大切さを知り、同様に作詩も漢字一字一字を味わいながら、言

わば画家が絵の具を塗る如くに見える様になって来た。これらは、とにかく沢山作り、沢山読んだ（実は一首作るには、その何倍何十倍もの詩をデータベース上で読まざるを得ない）ご利益だ。

このインターネット上の漢詩のデータベースは簡体字によるものが多く、私が一番世話になっているものも簡体字経由である。協会の前身国際善隣俱樂部に中国語奨学生として、現代中国語を習わせて頂いた事がこんな処でまで役立った。恩返しをした

いと思つて入会したのに、いまだに恩を受けるばかりで、複雑な思いがする。出来れば、この記事が同好の方のお目に留り、

協会の中に漢詩を通じた何らかのつながりが生まれるきっかけになればと願っている。

ところで、私は環境委員会で、この二年、福島第一原発の後始末について発表して来た。そろそろ中間まとめを善隣誌に投稿してはどうかとの話もあったのだが、今迄の私の活動は私自身の為にはなっていないと、それ以上ではないと感ずる事大で、筆が進まなかった。今回、この文の最後に、私の福島第一原発に関する律詩を載せて、それに代えたい。

福島第一原子力発電所災禍後
為何我不使用冷暖房電気機器
廢炉 勞百姓、日夜 險危中。
鄉里 氣汚濁、都城 氣暖烘。
思輕 妨天業、心慢 進人工。
黑靄 蔽星月、偽光 歛小童。

（漢詩に親しむ 其二）として、この文を投稿するきっかけとなった伊豆七島航路の漢詩二十余首と、日本語歌詞及び写真を、後日投稿致します）

是彼員会

年末の上海3日間の見聞

日野正子（会員）

昨年、まもなく年末という頃に3日間上海見物の機会に恵まれた。以前、台湾のメーカーとの間のビジネスレターの翻訳（機械部品の不具合など）でお世話になった、T社の高橋社長にお伴した。T社は2011年11月に上海に事業所を設け、一昨年に続いて去年も親会社への配当が確実となり、安定的な成長期に入ったので、当時お世話になった上海大学のC教授への報告を兼ねての上海行きだった。

虹橋空港からそのまま長寧区税務局に寄り、ホテル虹橋錦江大酒店へ。そこから徒歩で事業所のT公司に向かった。総経理は日本人で2代目、中国人スタッフが4人。総経理からT公司の概要の説明を受け、業務が済むのを待って忘年会に参加させていただいた。中国人スタッフはみな標準的な日本語を巧みに話し、驚いたのは、すでにマンションを2つ持っていたり、成人を迎える息子へのプレゼントが十数万円のスマホだったり、また割り勘の場合の支払いは互いにスマホでという「現実」であった。T公司の設立手続きを担った同行の海外事業部の文氏は大連出身で、時に駄洒落も飛ばすなど日本語の達人である。当協会の講演会にも時々参加され、T公司でもやはり人材の確保と定着が大きな課題だという。

翌日午前中、人民広場にある「上海都市計画展示館」を見学した。東京でいえば江戸東京博物館に当たる。上海市中心区域の立体大型模型と、外灘から出発して浦東地区を陸上から空中へと滑走し、黄浦江を戻って夜の花火で終わるコースで全方位の景色を見せるバーチャル空間の仕掛けが新鮮だった。昼食はかねて聞いていたレトロな雰囲気を残す老錦江飯店北樓の「老夜上海」にお願いした。メニューには「没有」も多かったが、もちろん大変美味しかった。VISAカードが使えず皺の寄ったお札で払った。午後、上海大学科技樓にC教授を訪ねた。C教授はオートメーションの専門家で、大学発ベンチャー企業としてすでに南京に9千ムーという広大な面積の農業実験事業が進行中だという。超多忙な方で、南京の事業の総務課長のS女史が先に到着し、少し遅れて到着したC教授からプロジェクトで写真を交えて説明を受けた。続いて夜の会食に招かれ、5人で歓談した。S女史は有能で優美で華奢な上海女性だ。子どもを聞かれて「息子が生まれた月に毛沢東が亡くなっている」と答えると、「私の兄もそうだ」とのこと。ちょうど親子の年の差だった。私は、つい最近まで「三農問題」を論じていた中国

が、労働力不足ゆえオートメーション化、というのは次元があまりにかけ離れている気がして、S女史に尋ねると、農業従事者は高齢化で急減し、その子どもたちは農業を継がないので労働力不足になるという答えだった。C教授は複数の農家が共同して経営規模を大きくしても管理や技術の向上なしには生産性が下がる場合さえあり、指導が必要だと具体例を挙げた。来年、日本の農業ワールド2018には行きたいとのことで再会を約してお別れした。翌日は、午前中空港に行くまでの時間、車で市内を走り、中国共産党第1回全国代表大会が開かれた石庫門建築と第2回会議の場所を見学し、宋慶齡故居と宋家墓地などを回った。「紅色旅游」というそうで、前二か所は無料、故居ではパスポートの提示を求められ、シルバーということで半額になった。15年ぶりに上海を訪れ、ビジネスの厳しさの一端をのぞくことができ、旧知の方々への尊敬の念が増した旅だった。

力助会通信

◆平成30年「新年互礼会」を開催

●1月11日正午より58名の出席者があり、新橋の「新橋亭」で盛大に開催された。2月号でご報告した八島継男、矢吹晋両顧問を表彰し、矢野会長より表彰状と記念品が授与された(表2写真参照)。恒例の陶謡会のメンバー5名が御題小謡「語」を謡い、最高年齢(95歳)を迎えられた市川英雄様による「乾杯」の首頭で新年会は和やかに始まった。最高顧問の三原朝彦衆議院議員の代理の秘書のご挨拶、最新中国情報のご披露を含めた杉山秀子様のご挨拶、土屋民雄様の詩吟等も花を添えた。和気調々のうちに中締め竹前栄男様の「万歳三唱」で元気を分かち合い、岡部滋常務理事の閉会の辞でつつがなく新年互礼会を挙行することができた。

◆自衛消防訓練の実施

●平成29年11月28日、善隣会館のテナントさんを対象に消防訓練を実施した。この日は予め芝消防署には連絡をしておき、午後3時に火災報知器を鳴らし、大声で「火事だ!火事だ!」と叫び、テナントさん各階段を使って1階まで下りてもらった。次に裏の路地で、消火器使用の実地訓練を行った。その後、

7階の談話室で消防専門家大堀真徳氏の座学で実際の火災発生時の注意点を指導してもらった。



自衛消防訓練の様子

会員だより

◎計報

藤田一幸氏(93歳)
平成30年1月13日逝去
謹んで哀悼の意を表します

同好会だより

〈謡曲会〉

3月27日例会 実施予定曲目会

源氏供養	井筒	羽衣	曲目	役割	地頭
シテ神保 ワキツレ鶴川	シテ鶴川 ツレ澤村	シテ堀野 ワキ澤村	堀野	割	鶴川
ワキ村瀬	ワキ土屋	宮下			

みんなの写真館

モンゴルの子どもたち(表紙)

この写真は、当協会が「みどりの募金」の助成を受けて、モンゴルの3つの学校(日本の無償資金協力で建設した学校の一部)に学園緑化のための植林を実施した際、モンゴル側で当協会のカウンターパートとして協力していただいたビンデルヤさんの娘さん(当時は胎児でした)と彼女の兄弟のお子さんたちです。正月の準備として着飾ったところだそうです。

植林3年目に入って、木々が予想以上に良好に生育しており、その後に生まれた娘さんの成長とともに、これからも見守っていききたいものです。(八島継男)

学校植林の一つ(表4上)

表紙の関連した学校植林の一つ、2015年4月〜2016年6月にわたってモンゴル・ウランバートル市郊外の第121学校で実施した植林地の看板、その下の青々

と育っている木々はライラック、オウトウ、樺、キタチアロエなどです。子どもたちの成長ともに木々も生育しています。(八島継男)

富士と夕日(表4下)

東京都東久留米市は、東久留米駅の改札口(2階)を出て右(西口)側に進み、自動ドアを通って通路を進んだところに屋外のテラスがあります。このテラスからは、西に向かって真っすぐ伸びる「まろにえ富士見通り」の先に富士山が眺望でき、特に冬の季節は美しい姿が眺められます。

富士見テラスは平成17年10月に国土交通省関東地方整備局主催の「関東の富士見百景」に選定されています(市のHPより)。

冬のある日、私もぜひ「夕日のダイヤモンド富士」を撮ってみた!と三脚を立てて、シャッターチャンス待ち続けました。

今だ!と撮ったのがこれです。(いちや)

2018年3月の行事予定

- 2日(金) 14:00 ○公開「近現代史講座」第13回
講師 大日方純夫氏(早稲田大学教授)
『日本近現代史を読む』「第17章 大東亜共栄圏というスローガンの下で」
- 6日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 7日(水) 13:00 俳句会
投句の場合は兼題「杉の花、酒」及び当季雑詠
- 9日(金) 11:00 一石会囲碁例会
- 15日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会
「中国市民社会で注目される 社会組織を通じた地方ガバナンス」
黄媚氏(筑波大学人文社会系研究員)
- 20日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 22日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会
「中国内陸部の諸民族から見た一帯一路の展望」
楊海英(大野旭)氏(静岡大学教授)
- 27日(火) 13:00 謡曲会例会
- 30日(金) 16:00 ○公開「善隣中国塾」第6回
塾長 矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授)
『習近平の夢』「第5章 非核・統一朝鮮の夢」

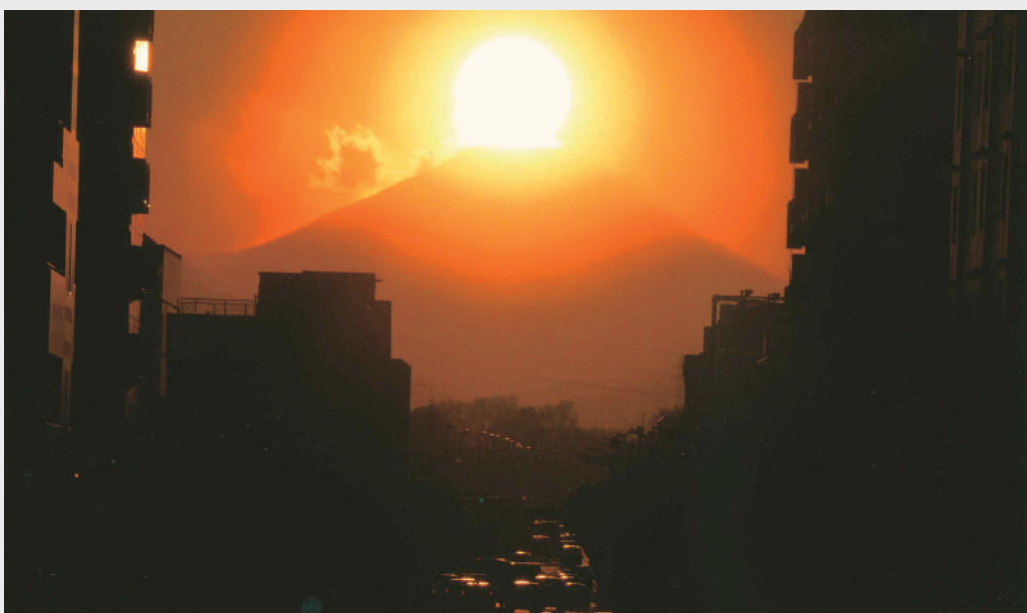
3月の会議予定

- | | | | |
|-------------|--------------------------------------|--------------|-----------|
| 1日(木) 15:30 | 講演委員会 | 13日(火) 14:00 | 国際交流委員会 |
| 〃 | 15:30 広報委員会 | 14日(水) 14:00 | 財政委員会 |
| 2日(金) 14:00 | 東北委員会 | 22日(木) 14:00 | 理事会(第16回) |
| 5日(月) 14:00 | 環境委員会(中村陽子氏講演「主要農産物種子法廃止」あり、会員の聴講歓迎) | | |

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印：1000円、○印：500円、無印：無料です。

※下線は通常日程に変更あり

みんなの 写真館



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<http://www.kokusaizenrin.com>

ISSN 0386-0345
二〇一八年(平成三十年)三月一日・毎月一日発行

「善隣」第四八九号(通巻七五六)

発行所

〒

一〇五〇〇〇四
一般社団法人 国際善隣協会

電話 〇三三五七三三〇五(番代表)

東京都港区新橋一五五